

地域みんなでまちづくり会議活動報告書

地区名	村山学園通学区域	報告者氏名	松下 君江
開催日時	平成29年7月26日(水) 午後7時から8時まで		
会場	市民総合センター 集会室		
参加者	市長の出席(有・無) 市民14名、地域担当職員3名 合計17名(うち男性9名 女性8名)		
(議題等)			
① 地域の課題を踏まえた活性化について、方向性の検討			
② その他			
(1) 次回の検討事項について			
(2) 次回の開催日について			
(会議の内容)			
① 中西悦男会長からあいさつ			
② 前回副会長に選出された緑が丘地域包括支援センターの菅原恭子氏からあいさつ			
③ 地域の課題を踏まえた活性化について、方向性の検討			
各グループで取組について話し合い、意見を深める。AグループからCグループの3グループに分かれ、地域の子どもと高齢者を中心とした取組ができないか、前回各グループから出された課題や地域の活性化のまとめをもとに意見交換をした。			
④ 各グループの意見発表			
Aグループ(高野氏から)			
① 地域の高齢者が子どもに遊びを教えながら、交流を図る。 小中学生に囲碁・将棋の指導や、伝統的な遊びのけん玉やこま回しなどを教えながら、交流を図る。			
② 老人会の大西氏の意見 集会所を開放して、小・中学生と高齢者の交流を図る。 高齢者が得意とする輪投げ、手芸などの指導を通して、子ども達と交流する。			
③ 社会福祉協議会前畠氏の意見 障害者の理解を深めながら高齢者と子どもが交流を図る。 身障センターにおいて車いすの展示や手話の紹介などに子ども達が参加できるとよい。 市民総合センターの施設見学を通して、子ども・障害者・高齢者お互いの理解を深める。			
Bグループ(佐野氏から)			
① 子どもとの交流を図るには、どういった取組がよいかと考える前に、超高齢化で高齢者がどんなことに興味を持っているのか、高齢者の意識を把握するのはとても難しい。			
② 地域に子どもはいないので、地域の高齢者が学校の行事・イベントに参加し、ふれあいのきっかけ作りをするとよい。たとえば、凧揚げ、紙飛行機飛ばし、竹馬など昔の遊びを通してふれあうのもよいのではという意見があった。			
◎ まとめ：地域みんなでまちづくり会議の委員が学校行事に参加するところから始めてみたらどうか。			
Cグループ(佐藤氏から)			
① 青少年対策地区委員会のおまつりに高齢者を招いて、交流を図ってみたいという意見が			

<p>あったが、一方で高齢者に来てもらうだけでなく、こういった目的にするか少し考える必要があるという意見も出された。</p>	
<p>②老人会などで元気よく活躍されている高齢者を招いて、グラウンドゴルフ大会を開催して、小・中学生に手ほどきをしてもらう。</p>	
<p>③地域がみんなでまちづくりしていくには、外せないのが環境。地域のみんなでごみの分別に挑戦して、環境学習、リサイクルの学習につなげるのはどうか。</p>	
<p>○村山学園の齋藤実学校長から、村山学園の様々な学校行事や地域でのボランティア活動について、ご紹介をいただいた。</p>	
<p>(その他)</p>	
<p>特になし</p>	
<p>(次回予定)</p>	
日 時	平成29年11月1日(水) 午後7時から
会 場	ふれあいセンター会議室
議 題 等	事務局が各グループの発表を持ち帰り、具体的に取り組めるか掘り下げたうえで、全体で協議を詰めていくこととした。